

日本社会福祉学会事務局から

◆会費の納入はお早めをお願いします

4月上旬に2019年度の会費請求をいたしました。皆さまのお手元に届きましたでしょうか。年会費をまだお振込みいただけていない方は、至急お納めくださいますようお願いいたします。

また、2017年度の年会費が未納の方は、『社会福祉学』の送付を一時停止させていたしております。会費納入が確認されましたら学会誌を発送いたしますので、ご了承くださいませますようお願いいたします。

これから納入される方で、銀行振込みによるご入金をお考えの方は、お名前の前に会員番号を入力してください。また、大学等のご所属先を通じてお振込みをされる場合は、ご所属先の経理担当者の方から、本学会にその旨をメールまたはFAXでご連絡いただくようご依頼ください。

◆登録情報更新のお願い

お引越しや所属先の異動などにより登録情報が変更された方は、学会HPの会員専用ページ「マイページ」より、以下の手続きが可能ですので、どうぞご活用ください。

- ①登録内容の確認・変更、②パスワードの変更、③会費納入状況の確認、
- ④会員名簿検索

なお、パスワードをお忘れの場合、メールアドレスの登録が必須となりますので、その際には事務局 <office@jssw.jp> までお問い合わせください。

◆第67回秋季大会の参加申込のご案内

9月21日（土）～22（日）に日本社会福祉学会第67回秋季大会を大分大学にて開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。第67回秋季大会の詳細については学会ホームページをご確認ください。

*第67回秋季大会ホームページ <http://www.jssw.jp/conf/67/>

- 事前参加登録の締切日：オンライン 7月31日（水）24：00
- 事前参加費払込締切日： 8月19日（月）

編集後記

「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を最初に読んだ驚きは、「第三世代の権利」を挙げ、いわゆる第三世代の倫理と呼ばれるものの中でも、特に環境やサステナブルに関する倫理に絞って取り込んだことであった。ソーシャルワークそのものを拡張し、とりわけ社会で起きている諸問題に対して適応できるようアップデートする試みと理解した。日本では1991年に加藤尚武が、「環境倫理学のすすめ」という新書を著し、倫理や哲学の世界でのサステナブルに関する議論を「環境倫理」という用語で分かりやすくまとめた。加藤は「自然の生存権の問題」、「世代間倫理の問題」、「地球全体主義」という3つの基本的な主張に整理し、これを掘り下げると「民衆主義だとか、個人主義だとかいっている決定システムに構造的な欠陥が存在する」ことが分ると指摘した（加藤 1991）。グローバル定義においては、加藤の整理とほぼ同様な環境倫理の3つの原則が、「生物多様性」、「世代間平等の権利」、「自然界」という用語で盛り込まれ、それを軸に据えたからこそ「集団的責任」、「多様性尊重の諸原理」、「民族固有の知」、「共存」、「互恵的な関係」などの概念や用語が盛り込めたと解釈できる。サステナブルの議論を取り込むことはソーシャルワークが目指すべき世界のあり方に繋がると同時に、多様な議論を包含することにもなる。とりわけ私たちの在り方、生き方そのものに対して疑問を投げかけるものであり、ソーシャルワークがその内に留まることを許さない。私は、ソーシャルワーク自体が「実践に基づいた専門職であり学問である」だけでなく、「専門職」という自称も含めたその中身が強烈に問われ、変化や行動、そして在り方、生き方の再構築を求められる時代に入ったと認識した。

以上の私的な思考経験も踏まえて今回のニューズレターを読むと、『「共生」のゆくえ』、第67回秋季大会におけるテーマ「自立は社会福祉の規範たり得るか～存在の多様性を支える論理とは」、第67回春期大会における「個人の尊厳」についての議論、「社会課題解決に向けた新しい潮流とソーシャルワーク」など、新しい時代に向けての新旧の視座が提示され、未来をみる目として何を持つべきかを日々悩む私にとっては大きな学びとなった。同時に、「葛藤」や「問い」の構造も含めて議論は温故知新であり、社会福祉学やソーシャルワークの中に留まって過去から学び、実践し、研究、教育を行う限界も認識しなければならない時代だと認識した。これから先の未来、例えば「共生社会」の議論に向けて、社会福祉学、ソーシャルワークが人々に貢献できるよう、私たち自身が自己の再構築を進めなければならない。同時に、東アジアに位置する日本が潜在的に持つ役割も認識する。未来に向けての社会福祉学、ソーシャルワークが、自身の内在する「強み」の活かし方を、現在、そして未来（世代間）の両方の視座で改めて認識し、これまでの思考や教訓を噛み締めながら、人々と共に考え続けたい。

加藤尚武（1991）『環境倫理学のすすめ』丸善ライブラリー

有村大士（日本社会事業大学）